News Release

PeptiDream

各　　位

平成 28 年 6 月 29 日
ペプチドリーム株式会社
http://www.peptidream.com/
（証券コード：4587　東証第一部）

新しい抗インフルエンザ薬 PD-001 の前臨床試験開始のお知らせ

ペプチドリーム株式会社（代表取締役社長：窪田規一、本社：東京都目黒区、東証一部）は、研究開発中だった抗インフルエンザウイルス特殊環状ペプチドの前臨床試験を開始しましたので、お知らせいたします。

以前から継続的に行っていた各種非臨床試験(注)の結果、薬剤の溶解度、体内動態、投与法、投与タイミング等の薬剤の開発に欠かせないデータの取得が完了しましたので、GLP基準を満たした前臨床試験を開始することといたしました。従前の特殊環状ペプチドの薬剤活性と体内動態を飛躍的に改良した開発ナンバー「PD-001」を新たな開発候補特殊環状ペプチドとし、GLPに準拠した原体の入手に伴ってGLP準拠の毒性試験を行います。なお、GLP準拠の原体合成及び前臨床試験の実施については、それぞれ専門の外部機関に委託しております。

当社では、すでに平成28年５月にお知らせ済みの「アミノ酸・特殊アミノ酸の供給に関する戦略的提携」等により、特殊ペプチドの原材料であるアミノ酸類の調達体制を整備してまいりました。また、特殊ペプチドの大量合成やGLP準拠の原体合成に関しては、このたびの「PD-001」のGLP準拠の原体供給を通じて、現在未公表のいくつかのパートナーとの間で製造に関する戦略的提携を模索しております。

(注)「前臨床試験」は「非臨床試験」の中に含まれる概念ですが、薬剤候補物質の製造を GLP 基準に準拠して作成する必要があるため、「前臨床試験」と「非臨床試験」を分けて表現しています。

【ペプチドリーム株式会社 常務取締役 リード・パトリック及び取締役研究開発部長 舛屋圭一のコメント】

「開発の観点から特に改善の必要を感じていた薬物の体内動態の大幅な改善と、その投与法と投与タイミングに関する知見を得られましたので、前臨床開発へと進めることをうれしく思っています。今後は前臨床試験の結果に注視し、将来の臨床開発へ向けた準備を行っていく予定であります。」

過去６年間に、当社は多くの世界的製薬企業（米AMGEN社、英AstraZeneca社、米Bristol-Myers-Squibb社、米Genentech社、英GlaxoSmithKline社、仏IPSEN社、米Lilly社、米Merck社、スイスNOVARTIS社、仏Sanofi社、旭化成ファーマ株式会社、杏林製薬株式会社、塩野義製薬株式会社、第一三共株式会社、田辺三菱製薬株式会社、帝人ファーマ

株式会社）との間で創薬共同研究開発契約を結び、戦略的共同研究開発を行ってきました。さらに、米Bristol-Myers-Squibb社、スイスNOVARTIS社及び米Lilly社に対しては、当社独自の創薬開発プラットフォームシステム：PDPS の非独占的なライセンス許諾（技術ライセンス契約）を実施しております。

【ペプチドリーム株式会社について】

ペプチドリーム株式会社は、「日本発、世界初の新薬を創出し社会に貢献したい」という現社長窪田と現社外取締役菅（東京大学大学院教授）の共通の夢から、平成 18 年 7 月に設立されました。独自の創薬開発プラットフォームシステム：PDPS（Peptide Discovery Platform System）を用いて、極めて広範囲にわたる特殊ペプチドを多数（数兆種類）合成し、高速な評価を可能にすることで、創薬において重要なヒット化合物の創製、リード化合物の選択、並びにファーマコフォアの理解を極めて簡便に、かつ、効率的に行えるようにしました。ペプチドリーム株式会社は、特殊ペプチドを用いた創薬企業の世界的なリーダーとして世界中の病気で苦しんでいる人々に画期的新薬を提供することを使命として、研究開発に取り組んでおります。

【本リリースに関するお問い合わせ先】
ペプチドリーム株式会社　経営管理部　関根
TEL：03-3485-7707